

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs 17のゴール

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

■ = 記事が関連する主なゴール



親の経済状況が、子ども
の学力に影響するとの指摘

キッズマイル代表の関根直樹さん(43)は「経済的な理由で勉強や夢を諦めてほしくない。子どもが夢を
持つ社会を目指すことは、SDGsの理念である『誰一人取り残さない』こと
につながる」と力を込める。

〈14〉

毎週土曜日、上越市の市休みの課題に取り組んでいる民ブラザで開かれている無
料の学習支援教室には、経
済的な理由で塾に通えない
小中学生が集まる。妙高市
のNPO法人「キッズスマ
イル」が2016年から運
営。大学生ボランティア
が、登録する日人に宿題や
苦手科目を教えている。夏
期講習では約半数が、中間
テストの半分は満たない
とされる。

学習支援

将来の夢描けるように

世界では貧困や紛争などで十分な教育を受けられない子どもは多いが、日本でも親の収入などによる教育格差が指摘されている。「質の高い教育をみんなに」は、SDGs(持続可能な開発目標)の柱の一つ。「貧困の連鎖」から脱却するためにも、教育支援は必要不可欠で、県内でも無料や低額で学びを支援する場が広がっている。

無料や低額 取り組み拡大



学校の宿題などを子どもたちに教える「キッズマイル」の関係員直樹さん＝上越市



夏休み中に開く学習会「寺子屋塾」で、小学生と工作に取り組む水野谷理恵さん(中央)＝村上

は少なくない。厚労省の調
査では、生活保護世帯の大
学などへの進学率は202
0年4月時点で37・3%
と、全世帯の進学率73・4
%と大きな差がある。
内閣府の報告書によると、
世帯収入が低いほど、フ
リースクールだ。
村上市の水野谷理恵さん
結果が出ていて、塾に通
ないだけでなく、1人で
原発事故により、小学校
加傾向にある。
学校に代わる学びの場
一つとして注目されるのが
学校の子どもや特別支援
学級に通う子どもと一緒に宿
題に取り組む。「互いの
違いを受け入れ、良さを伸
ばし合う場」にしたいと水
野谷さん。いずれの事業も
低額に設定している。

る時間が多いことや、文化
に触れる機会の少なさなど
も要因とみられる。
親の経済状況が子に引き
継がれる「貧困の連鎖」が
生じているとも言われ、生
まれた境遇で将来が決ま
ると悲観する者が増え、い
る。不登校の問題も深刻で、
20年度は全国の小中学校で
約19万6千人、県内では約
3100人で、いずれも増
加傾向にある。
地域の子とも向けの学習
会も開く。学生がサポート
し、不登校の子や特別支援
学級に通う子どもと一緒に宿
題に取り組む。「互いの
違いを受け入れ、良さを伸
ばし合う場」にしたいと水
野谷さん。いずれの事業も
低額に設定している。

定 Ⅱ
Ⅱ 次回(9月8日)掲載予
(報道部・布川舞子)

県立大子とも学科の小澤
薫准教授(50)Ⅱ社会保障Ⅱ
は「子どもは人との関わり
の中で視野が広がっていく
」と説明する。子どもの
進路は学習だけでなく、運
動や文化などの経験も影響
するとし、「家庭の経済状
況にかかわらず通える学
びの場が地域に増えれば、子
どもの将来の選択肢を広げ
ることになり、支援が必要
な子にもつながることがで
きる」と指摘した。

県内では4月時点で、10
町村を担当する県と、13市
が生活困窮世帯やひとり親
世帯の子どもの対象に、無
料の学習教室や支援員によ
る個別訪問を実施。子ども
も学習会を行うなど、支援
の動きは広がりに始してい
る。